

聲明書

關東同盟會城北合同労働組合を脱し 東京西部合同労働組合を組織し評議會に加盟す

▲運動の分岐點

吾が東京西部合同労働組合は、多年城北合同労働組合の中堅として、城北合同の政策を支持し來つたものであるが、吾等は今や、労働運動上の二つの相異なる指導精神のその一つを選ばなければならぬ分岐點に起つて居る。

然して其一つは現實の必要を稱して協同主義に墮し大衆を偽購せんとする精神であり、他の一つは現實の闘争の中にあつて、奈何に大衆を組織、結合し、奈何に大衆をして労働運動の本流に導くべきか云ふ、精神である。然らば吾等はその何れを選ばべきか、云ふまでもなく後者をなければならぬ。

▲總同盟幹部の墮落

吾等が之を信じ、他もまた之を許した吾が日本労働總同盟の日本に於ける労働運動の指導的地位は、今や無情にも破壊せられんとして居る。

總同盟は十三年度大會に於て、戰間的組合の立場から、勇敢に大衆を指導すべく分立せる組合及び未組織労働者の一大團結を策し、改良政策をも積極的に利用し以つて運動の大衆化を宣言した然るに何ぞ！ 多年幹部の地位に押れ官僚的精神に墮したる彼等は、無産階級解放の根本精神を拋棄して、改良主義の奴隷化した。彼等は支配階級の彈壓的攻撃に、資本主義末期に於ける失業者の激増に感嘆し資本家を結託して「兵隊的施設の充實に努め」以つて資本家階級の従僕たらんとして居るではないか。

▲總同盟幹部の陰謀

斯くて、これ等幹部の墮落を糾弾し、吾が總同盟が、多年鍛錬し來たりたる戰間的精神を保持する爲めに、彼等官僚幹部を、公然、政策を以つて戦はんとする精銳分子は彼等幹部の障害物となつた。そこで彼等は政府及び資本家階級に頼り、支配階級に共同して、日本の労働運動を擾亂し、労働組合内部の新興勢力を駆逐せんとの陰謀を練らして居る。それが露骨に表はれたのは關東同盟の内紛に始まり、遂に彼の五組合の除名となり、更に十四年度大會直後何等の理由なくして關東同盟に於ける有力なる同志數名をも彼等せんとして居るのである。

▲城北合同の崩壊

吾等は之等の事實に依つて、總同盟幹部の惡辣なる陰謀を知つた。吾等は斯くの如き組合運動の裏切りの官僚幹部を排撃すべく、去る四月五日の夜開かれたる、城北合同労働組合の理事會に、總同盟内部腐敗運動に参加すべき事を提議した。然るに、城北合同内部に於て常に關東同盟の官僚幹部と相通じ、その毒案に浸潤したる城北合同の一部幹部は、我等のこの正當なる要求の前に屈服して、無法にも多數理事の名を藉りて遂に十二對七の差を以つて該案は否決せられた。斯くて、彼等城北合同の幹部は全く、總同盟の墮落幹部の走狗となり終るの醜体を演じ更に組合長以下の各本部長は叠々辭職する等の舉をなして、同組合は全く、自らを殺した。

▲東京西部合同労働組合の創立と關東地方評議會加盟

斯くて吾等城北合同労働組合員百名中の三分の二は驟然として、何等吾々組合員の意志の反映せられざる、城北合同労働組合に屬する事の不當なる事を思ひ、労働運動の正義を守る爲めに城北合同より脱退し、遂に東京西部合同労働組合を創立し、更に、吾等主義、主張を同じふる、同志、關東地方評議會に加盟するに至つたものである。

▲吾等の決心

吾等は以上に依つて吾等が斯くせねばならなかつた理由の一斑を述べた。吾等は非常なる決心、勇敢なる行爲を以つて、今後全國的同志を糾合して、總同盟をして正しきもの、手に奪還し眞實日本の労働運動を建設すべく猛進することを、茲に聲明し、更に全國の吾等の同志諸君に、之を訴ふるものである。

大正十四年四月八日

日本労働總同盟
關東地方評議會

東京西部合同労働組合